



一里石（街道のあと） （左）MAP1-⑩ （右）MAP1-⑳）
 城下町だった柳川は、柳川街道の外にも肥前街道や三池街道など多くの街道が行き来しており、それを思わせる史跡もいくつか残っています。
 慶長17(1612)年、田中吉政が領内の主な道路に、札の辻(現在の辻町付近)を起点として一里石を設置していますが、大和町豊原、三橋町久末、中山(二里石)にそれが残っています。
 また、三橋庁舎前の橋は、三橋町の名前の由来にもなった橋で、立花宗茂が柳川城を開城したときに加藤清正が出迎えたと伝えられるところです。現在では当時の面影はほとんど残っていませんが、その地名から旧街道の流れを想像することができます。



柳川街道（田中往還）跡 三橋町柳河（MAP1-㉔）
 柳川街道(柳川から久留米までの道路)は、柳川城を中心に道路網を整備した田中吉政により整備されたため、別名・田中往還とも呼ばれます。
 おおよそ現在の県道久留米柳川線に沿って通っていたと考えられますが、柳川発のスタート地点に当たるところには、当時の道幅のままと思われる狭い路地が残っています。



宮川温州園（顕彰碑） 坂本町（MAP2-㉓）
 現在、早生温州みかんの一種として広く普及している「宮川早生」の原木の発祥地で、顕彰碑が建立されています。
 当地の医師宮川謙吉氏が、自宅で栽培していた温州みかんの木に早熟で美しい果実が実っているのを発見し、品評会に出品したことにより、この種が広く栽培されるようになりました。その後正式に「宮川早生」と命名されたこの種は、早生温州みかんの主要品種として全国に普及し、みかん産業の発展に大きく寄与しました。
 福岡県は昭和11(1936)年原木を天然記念物に指定し、その保存に努めましたが、昭和23(1948)年に残念ながら枯死してしまいました。



教育会館 恵美須町（MAP2-㉒）
 柳河小学校の敷地内にある2階建ての堅牢な建物は、昭和7(1932)年に建設された柳川山門三池教育会の事務所です。一部改装されていますが、大半は建築当時そのままの姿が残っています。
 柳川の教育の向上や郷土史の普及活動に力を尽くしてきた教育会の歴史とともに、昭和初期の面影を残す建物として貴重な財産です。



三忠苑（安東省菴の墓） 旭町（MAP2-㉑）
 「海西の巨儒」と称され、柳川藩儒学の基礎を築いた安東省菴の墓が、旭町浄華寺の墓地の一角にあり、その墓石は昭和33(1958)年に県文化財史跡にも指定されています。
 墓域は昭和53(1978)年、顕彰会により枯山水の造園が整備され、省菴の著作から「三忠苑」と名づけられました。
 また、三忠苑には儒学の祖・孔子にゆかりのある中国原産の珍木「楷(かい)の木」が植えられていますが、この木は、会津藩校の日新館から顕彰会に贈られたものです。孔子にちなんで「学問の木」とも呼ばれる楷の木は、日本ではあまり見ることができない希少な木として珍重されています。



長命寺の仁王像 出来町（MAP2-㉔）
 うっそうとした林の中に佇む長命寺の山門には、仁王像がにらみをきかせています。
 この仁王像は元禄8(1695)年に仏師の東伝伝基が制作したものです。柳川ではあまり見られない「阿吽(あうん)」の仁王像ですが、これは、もともと日吉神社に安置されていたものが、明治維新の神仏分離の際に当地に移されたものです。
 境内には、他にも中世の石造物など貴重なものが多数残されています。



目野酒造 三橋町町（MAP1-㉒）
 筑後地方には昔からたくさんの造り酒屋がありましたが、市内では唯一その伝統を伝えています。創業明治23(1890)年の老舗で、その外観・建物も明治時代の風情が残っています。

立花いこいの森（中山農事試験場跡）
三橋町中山（MAP1-㉓）
 明治19(1886)年立花寛治によって開かれた中山農事試験場は、その昔全国的にも有名な、そして私立としては日本で最初の農事試験場でした。試験場で開催される農談会や品評会もたいへんな賑わいを見せていたようで、品評会の参観者が11万人にもなったという新聞記事も残されています。大正9(1920)年に試験場としての役割を終えるまで、農業技術の研究と普及に貢献した実績は計り知れません。現在この試験場跡地は「立花いこいの森」として閑静な公園が整備されています。

